

刈谷の中心市街地とまちづくりかりやの設立



昭和40年代の刈谷駅と周辺の街並みの様子



刈谷駅周辺には企業の本社が多く、その社員を対象とした飲食店が多く出店していた。当時、多くの市町で中心市街地の空洞化が進むなか、刈谷駅周辺では飲食店も増え、新たなビジネスホテルの建設も行われるなど、発展を続けていた。

もともとこのエリアには刈谷駅前商店街振興組合があり、「歩いて楽しいまちづくり」や「楽しいグルメ街のあるまちづくり」という目標を掲げて活動していた。しかし当時はそれがあまり浸透せず、女性が駅周辺を敬遠している実態もあった。そこで商店街が中心となり、平成19年に「グルメ街宣言委員会」を設置し、にぎわい作りに向けて各事業を実施していった。

カーリアンナイトの開催、南桜街園のオブジェ展示をはじめとする愛知教育大学との連携、飲食店の紹介マップ発行などは、商店街事業として現在も受け継がれている。



カーリアンナイト



オブジェ展示

刈谷駅前商店街振興組合は中心市街地の活性化を担う団体としてその活動範囲を広げていったが、主体となる組合員だけでは企画・運営・活動の実行に限界が出てきた。特定非営利活動法人まちづくりかりやは、そうした商店街活動を補完するものとして始まった。

まちづくりかりやの理念と活動内容

まちづくりかりやは、刈谷市及び周辺市町において賑わいの創出、地域コミュニティの醸成、地域文化づくりに関する事業を行うことにより、地域の活性化に寄与することを目的として誕生し、下記の特特定非営利活動を行ってきた。

- 1 まちづくりの推進を図る活動
- 2 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
- 3 地域安全活動
- 4 経済活動の活性化を図る活動
- 5 前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

① まちづくりの推進を図る活動

《カリマチストリート活用事業》 燎-kagaribi- (令和6年11月30日)



《刈谷駅南北連絡通路活用事業》

ただいま！ルシェ（令和6年4月から、毎月第3水・木曜日）



《みなくる広場活用事業》 カリアンブレラ2024（令和6年6月4日～16日）



《公園活用事業》 刈谷駅周辺花いっぱい運動（年2回花植えと花壇管理）



《公共空間活用事業》 マルシェ主催（年4回程度）



刈谷駅前歩道を使った『リアン』開催



刈谷駅北口のきたくる広場を活用した『リアン』開催



大手公園を使った『リアン』での一コマ

② 学術、文化、芸術またはスポーツの振興を図る活動

《学術振興》

わたしのふるさとさがしワークショップ



半田の古民家活用を視察

幕末から今にいたる
刈谷の知られざる物語

日本有数のものづくり都市といわれる現在の刈谷市は、幕末から明治・大正・昭和にかけて日本の近代化や高度経済成長の激動のなか、様々な先人の先見と努力が重なって発展してきました。今回は、近現代の刈谷の成り立ちに影響を与えた人物や出来事に焦点をあて、「刈谷の知られざる物語」を地元有志がひも解きます。

申込方法
以下を申込問合先へご連絡ください。
①氏名
②メールアドレス
③電話番号

[申込問合先]
NPO法人まちづくりかりや(担当:今村)
t-imamura@machikari.com
0566-45-6440 電話受付時間 10:00-17:00

商業の変遷
刈谷銀座の繁栄
刈谷銀座周辺の活性化

工業・産業の発展
まじりつくりのぼじまり

参加費 無料
定員 60名
事前申込優先
空席があれば当日参加も可

令和4年
10月2日[日] 14:00-16:00

刈谷市中央生涯学習センター 403・404研修室
刈谷市総合文化センター アイリス 4階

発 表 者 刈谷のまち(私のふるさと探し)ワークショップ参加者
刈谷市中心市街地の西部・中部・東部の地元有志が2019年から勉強会を開催
[歴史文化交流まちなかオアシス補助事業]

主催・問合せ NPO法人まちづくりかりや t-imamura@machikari.com / 0566-45-6440

申し込みフォーム

《文化・芸術振興》

市民参加型ドラマプロジェクト「名古屋行き最終列車」三河線編



名古屋テレビ（メ〜テレ）が行った市民参加型ドラマプロジェクト「名古屋行き最終列車」三河線編において、撮影場所の候補地探しや、エキストラ募集を行った。

③ 地域安全活動

《防犯・清掃活動》花と蝶のパトロール



『花と蝶のパトロール』（令和6年3月31日まで）

夜のお店の従業員や周辺の企業、団体などが協働してゴミ拾い。



刈谷駅周辺連絡協議会の主催する、『花と蝶のパトロール』などの活動をコーディネートした。



④ 経済の活性化を図る活動

《創業者支援事業》刈谷市チャレンジショップ事業運営



刈谷市が主催するチャレンジショップ事業において、創業応援ショップ（仮）を作るワークショップの企画・運営を行った。

⑤ 同様の活動を行う団体の運営や活動に関する連絡、助言、援助の活動

《商店街支援事業》 カリアンナイト企画・運営



《企業との協力事業》 生成AIロボットによる角打ちなど



株式会社デンソーウェーブの産業用人協働ロボットCOBOTTA（コボッタ）に、株式会社デンソーが生成AIを搭載した「生成AIロボット“Jullie”」による角打ちイベント。



⑥ 行政との連携

《刈谷市》 KariCoCo（刈谷駅北地区地域交流施設）の指定管理を行なっている。



有料の滞在ラウンジでは、貸し切り使用で様々なイベントが行われ、無料の滞在スペースにある『POP UP SHOP』では、曜日別にいろいろな店舗が出店している。

《知立市、安城市など》 知立駅周辺都市計画、まちけん通信の発刊など。

刈谷の中心市街地における課題

刈谷駅周辺は、多くの来街者が訪れ、夕方から夜にかけて飲食街やそれに付随する夜の店が収益を伸ばすことで、中心市街地の活性化を成しとげてきた。

しかし、家賃の高騰や空いているスペースの存在、また昼に営業している店舗が少なく昼間のにぎわい不足や、新たな住人とそれまでの住人とのコミュニケーションの問題など、様々な課題がある。



A.昼のにぎわいが少ない



「カリアンナイト」の成功や周辺企業の就業人口増加などにより、駅前商店街は飲食店が増え、その8割以上が飲食店である。またチェーン店に店舗を貸す地主も多い。

これらの店では利益の多い酒類の販売に注力し、夜のみの営業とする店が多く、物販店の減少もあって、昼に営業している店舗は少ない。企業も社内に飲食店やコンビニを設け、駅前周辺の商店を昼に利用する企業関係者は多くない。



対策：昼の賑わいを直接的に創出するイベントを定期的に行う。

物販店の出店を促す“環境づくり”と、後継者育成といった“ひとづくり”を行う。

商店街だけでなく、企業や住人も含めた“交流”を増やし、中心市街地活性化を図る。

B.馴染みの店が減り、迷惑行為などが増えた



貸店舗が増えた結果、刈谷駅周辺は個人経営者が少なくなっていき、複数の店舗を持つチェーン店が多くなった。結果、住人にとっては愛着のある店舗が姿を消し、これまで暗黙のルールだった「客引き行為」や「景観にそぐわない看板」「ゴミの不始末」といった迷惑行為が少しずつ増えている。

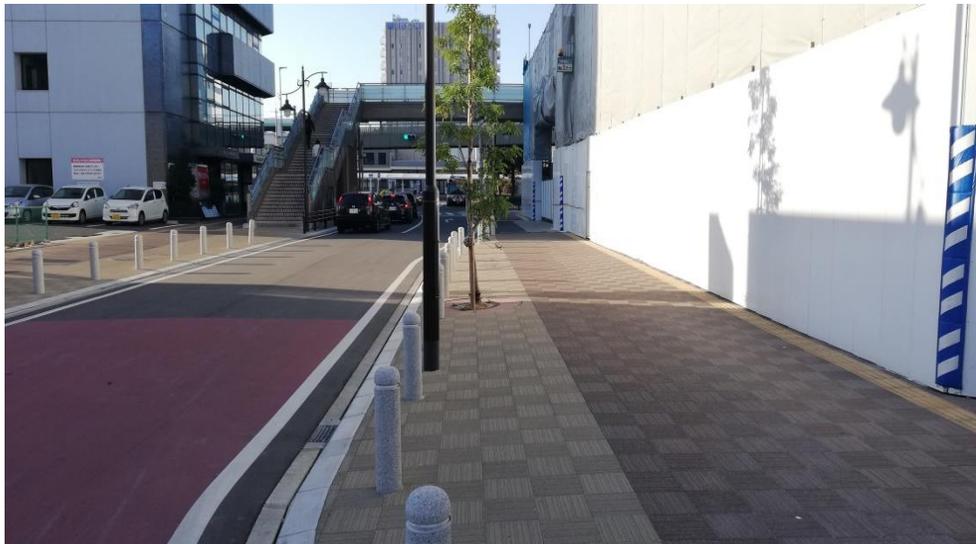


対策：従来の店だけでなく新規店も含めて、出店や営業に関するルール作りを行う。

店舗の交流の場として「商店街」を機能強化し、安全で安心な商店街の維持を行う。

客引きやゴミなど諸問題解決のため、地域と商店街の連携を密にする。

C. 住人同士の繋がりが、希薄になっている



刈谷駅周辺はドーナツ化現象が起こっていたが、新たなマンション開発が始められた結果、これまで住んでいた住人と新たな住人との間で意思疎通が取れなくなり、自治会への参加者減少や子ども会の廃止が起こっている。



対策：イベントやワークショップ、情報発信などを通して、住民同士の交流の場を作る。
住民だけでなくあらゆる層との交流を促進して、よりよい“まちづくり”を目指す。
交流の拠点を作り、そこから様々なグループや繋がりを生み出す。

まちづくりかりやの、今後のコンセプト

都市再生推進法人の指定を目指しながら、刈谷駅周辺の公共空間や民地などを利用して、昼間のにぎわいづくりを目的とした各種事業（マルシェの主催、ワークショップの開催、企業や団体・行政と連携した活動）を行う。



指定管理を行なっているKariCoCo（刈谷駅北地区地域交流施設）で、イベントやワークショップを開催することで、“会話“から”交流”を生み、刈谷駅周辺の笑顔あふれるにぎわいづくりを促進する。

